

令和5年度 US OPEN jr 派遣事業 参加報告書



全国高等学校体育連盟テニス専門部

報告者 宮崎県立宮崎商業高等学校 菊池 誠

US OPEN Jr 派遣チーム 参加者一覧

	氏 名	ふりがな	所属または役職
団長	佐藤 直樹	さとう なおき	全国高体連テニス専門部副部長
副団長	古賀 賢	こが けん	全国選抜実行委員会会長※自費派遣
スペシャルパートナー	上田 篤	うえだ あつし	(株) アメアスポーツジャパン
男子監督	徳丸 真史	とくまる まさし	三重県立四日市工業高等学校
女子監督	菊池 誠	きくち まこと	宮崎県立宮崎商業高等学校
男子選手	武方 駿哉	たけかた しゅんや	柳川高等学校
女子選手	里 菜央	さと ななか	相生学院高等学校

選手団滞在先 8/26～9/11

The Manhattan at Times Square HOTEL

住所 790 7th Avenue New York , NY 10019

TEL : +1 212 581 3300

FAX : +1 212 397 4786



大会オフィシャルホテル

(予選) クレデンシャル受け取りおよびサインイン

New York Hilton Midtown

住所 1335 6th Avenue New York , NY 10019

TEL: +1 212 586 7000

FAX: +1 212 315 1374



(本戦) クレデンシャル受け取りおよびサインイン

New York Hilton Midtown

住所 1335 6th Avenue New York , NY 10019

TEL: +1 212 586 7000

FAX: +1 212 315 1374



(本戦出場者ミーティング)

Chase Indoor Tennis Center

USTA Billie Jean King National Tennis Center Flushing, NY 11368

全日程詳細（8月26日～9月12日）

日時		時刻	プログラム
第1日	8月26日 (土)	～15:30 18:35 18:40 19:50 20:45 21:30 23:00	各地より羽田空港へ 集合時間厳守 参加者集合 支給物品受け取り 取材 搭乗手続き等 羽田空港発（JAL004 便） JFK 空港着、入国手続き 専用車でホテル移動 Manhattan at Times Square HOTEL 着 チェックイン ホテル近隣で夕食 Times Square 散歩 就寝
第2日	8月27日 (日)	6:30 7:30 8:45 10:00～12:00 13:00～17:30 18:30 19:00 22:30	起床 朝食（ホテル近隣のカフェ） ホテル発 練習（会場 MAXIMUM Tennis Development Zone） USOPEN 会場視察、トッププロ等の練習見学 ホテル着 夕食 就寝
第3日	8月28日 (月)	6:30 7:30 8:45 10:00～12:00 13:00 15:00～19:30 21:30 22:00 23:30	起床 朝食（ホテル近隣のカフェ） ホテル発 練習（会場 MAXIMUM Tennis Development Zone） 昼食 USOPEN 本戦会場移動、島袋選手（JPN）試合観戦・応援 ホテル着 夕食 就寝
第4日	8月29日 (火)	6:30 7:30 8:45 10:00～12:00 13:00 14:00 16:00 19:00 22:30	起床 朝食（ホテル近隣のカフェ） ホテル発 練習（会場 MAXIMUM Tennis Development Zone） 昼食 時差修正を兼ねて NY 観光（自由の女神・グランド0等） ホテル着 夕食 就寝
第5日	8月30日 (水)	6:30 7:30 8:00 8:30 9:30 11:00 16:00 17:00 18:00 22:00	起床 朝食 サインイン USOPEN オフィシャルホテル （New York Hilton Midtown）にてクレデンシャルの受け取り およびサインイン、Practice Court Reservation 予選会場（ケアリーリーズテニスセンター）に移動 予選会場着、公式練習 公式練習開始 公式練習終了 ホテル着 夕食 就寝

第 6 日	8月31日 (木)	6:30 7:30 8:00 8:30 9:00 10:00 11:30 15:00 17:30 19:00 20:00 22:00	起床 朝食 ホテル発 予選会場着(ケアリーリーズテニスセンター) 武方選手公式練習 武方選手試合開始 里選手公式練習開始 里選手試合開始 全試合試合終了 ホテル着 夕食 就寝
第 7 日	9月1日 (金)	7:30 8:30 9:30 10:00 11:00 12:00 14:00 16:30 18:30 23:00	起床 朝食 ホテル発 予選会場着(ケアリーリーズテニスセンター) 公式練習 30分 里選手予選2R開始 里選手予選2R終了 ホテル着 夕食 就寝
第 8 日	9月2日 (土)	6:00 7:30 8:00 10:00 11:00 12:00 14:00 16:00 20:00 21:00 23:00	起床 朝食 本戦サインイン USOPEN オフィシャルホテル (New York Hilton Midtown)にてクレデンシャルの受け取り およびサインイン、Practice Court Reservation USTA ビリージーンキング・テニスセンター移動※オフィシャル シャトルバス USTA ビリージーンキング・テニスセンター着 以下本戦会場 昼食 公式練習 プレーヤーズミーティング ※Chase Indoor Tennis Center ホテル着 夕食 就寝
第 9 日	9月3日 (日)	5:30 6:30 7:30 8:15 9:00 9:30 12:30 13:20 14:30 16:00 17:00	起床 朝食 ホテル発 本戦会場着 公式練習開始 30分 徳丸監督・武方選手 ホテル発→JFK 国際空港 里選手本戦シングルス1R試合開始 徳丸監督・武方選手 JFK 国際空港発 JAL0005 便 里選手本戦シングルス1R試合終了 ダブルス練習 Indoor5番 Court 30分 ダブルspartner 齋藤選手と 本戦会場発 ※オフィシャルバス乗車

		18:30 19:00 22:00	ホテル着 夕食 就寝
第 1 0 日	9月4日 (月)	7:00 8:00 9:30 10:15 11:00 11:30 12:30 14:00 16:00 18:00 20:00 20:30 21:30 22:00 23:30	起床 朝食 本戦会場移動 ※オフィシャルバス乗車 本戦会場着 公式練習 昼食 里選手本戦シングルス2R 試合開始 里選手本戦シングルス2R 試合終了 試合前練習 齋藤・里組 本戦ダブルス1R 試合開始 齋藤・里組 本戦ダブルス1R 試合終了 本戦会場発 ※オフィシャルバス乗車 ホテル着 夕食 就寝
第 1 1 日	9月5日 (火)	8:00 8:30 10:30 12:00 13:00 16:00 17:00 19:30 22:30	起床 朝食 本戦会場移動 ※オフィシャルバス乗車 昼食 公式練習 1時間 本戦会場発 ※オフィシャルバス乗車 ホテル着 夕食 就寝
第 1 2 日	9月6日 (水)	6:00 7:00 8:30 10:00 12:00 14:00 16:00 16:30 17:30 18:30 22:30	起床 朝食 本戦会場移動 ※オフィシャルバス乗車 公式練習 昼食 齋藤・里組 本戦ダブルス2R 試合開始 齋藤・里組 本戦ダブルス2R 試合終了 本戦会場発 ※オフィシャルバス乗車 ホテル着 夕食 就寝
第 1 3 日	9月7日 (木)	6:00 7:00 8:30 10:30 16:00 17:45 18:30 19:30 20:00 22:30	起床 朝食 本戦会場移動 ※オフィシャルバス乗車 公式練習 齋藤・里組 本戦ダブルス QF 試合開始 齋藤・里組 本戦ダブルス QF 試合終了 本戦会場発 ※オフィシャルバス乗車 ホテル着 夕食 就寝

第 1 4 日	9月8日 (金)	7:30 8:30 10:30 12:00 13:30 19:00 20:30 21:30 23:00	起床 朝食 本戦会場移動 ※オフィシャルバス乗車 朝食 公式練習 ※1時間 待機 ※雨天・雷により Suspended 練習 ※1時間 夕食 ホテル着 就寝
第 1 5 日	9月9日 (土)	7:30 8:30 9:30 10:30 12:00 13:30 18:00 19:40 20:30 21:30 21:45 23:45	起床 朝食 本戦会場移動 ※オフィシャルバス乗車 公式練習 齋藤・里組 本戦ダブルス SF 試合開始 齋藤・里組 本戦ダブルス SF 試合終了 待機 齋藤・里組 本戦ダブルス F 試合開始 齋藤・里組 本戦ダブルス F 試合終了 本戦会場発 ※オフィシャルバス乗車 ホテル着 夕食 就寝
第 1 6 日	9月10日 (日)	8:00 8:30 18:00 22:00	起床 朝食 コインランドリー等 ホテル待機 夕食 就寝
第 1 7 日	9月11日 (月)	7:30 8:00 9:30 11:30 14:20	起床 朝食 ホテル発 JFK 国際空港 専用車にて JFK 国際空港着 出国審査 JFK 国際空港発 JAL0005 便
第 1 8 日	9月12日 (火)	17:00 17:45 18:45	羽田空港着 入国審査 取材 解散

試合結果

武方選手

BOYS' QUAL SINGLES R1

S.Takekata (JAPAN) 0-6 2-6 F.De Michele(Italy) 第7シード

里選手

GIRLS' QUAL SINGLES R1

N.Sato (JAPAN) 7-6(5) 3-6 [14-12] E.Sartz-Lunde (Norway) 第3シード

GIRLS' QUAL SINGLES R2

N.Sato (JAPAN) 6-1 6-4 N.Xu (Canada) 第12シード

本戦進出決定

JUNIOR GIRLS' SINGLES R1

N.Sato (JAPAN) 6-1 6-3 J.Bernales (USA)

JUNIOR GIRLS' SINGLES R2

N.Sato (JAPAN) 1-6 1-6 R.Jamrichova (Slovakia) 第1シード

※ベスト32

JUNIOR GIRLS' DOUBLES R1

S.Saito・N.Sato (JAPAN) 7-6(3) 7-5 V.Osuigwe (USA)・T.Rabman (USA)

JUNIOR GIRLS' DOUBLES R2

S.Saito・N.Sato (JAPAN) 7-5 4-6 [10-7] S.Lam(USA)・M.Stojsavljevic(United Kingdom)

JUNIOR GIRLS' DOUBLES QF

S.Saito・N.Sato (JAPAN) 7-6(3) 6-0 A.Penickova・K.Penickova(USA)

JUNIOR GIRLS' DOUBLES SF

S.Saito・N.Sato (JAPAN) 6-2 6-3 R.Jamrichova(Slovakia)・K.Quevedo(USA) 第1シード

JUNIOR GIRLS' DOUBLES F

S.Saito・N.Sato (JAPAN) 6-1 5-7 [8-10] M.Gae(Romania)・A.Gureva(★)

8月26日（土）第1日目

武方 駿哉選手

今日は時差ボケとかありながらそこまで寝れずの移動だったため疲れました。ニューヨークに着いたらホテルに移動してその後ご飯を食べに行き、タイムズスクエアを見に行きました。ニューヨークならではの迫力や雰囲気などがすごかったです。明日からはオンコートでの調整となるのでしっかり調整しながら楽しめたいと思います。



里 菜央選手

私にとって初めての海外で、慣れない長時間の搭乗はとても疲れました。ですが、ホテルのすぐ近くにタイムズスクエアがあった為、見に行きました。テレビで見た時より実物は物凄く輝いていて驚きました。ご飯も日本食があるお店に食べに行きました。そのお店では、日本人の方が居てその方は、とても気さくな方で話しやすかったですし、料理も美味しかったのでまた食べに行きたいと思いました。明日から初めての海外での練習で緊張していますが、楽しみつつ試合に向けてしっかり準備していきたいと思います。



15時30分に羽田空港第3ターミナルビルに集合して今回の日本代表チームのユニフォームを受け取り、着替えののちインタビュー動画等の撮影を行いました。ユニフォームを提供頂いた「Setinn」の関係者の方々に心から感謝します。普段は全国の各地で活動し、全国大会ともなれば凌ぎを削り合っている関係であっても、こうやって同じウェアに袖を通すことによって、「One team」になる確かな手応えを感じることができました。

日本時間の8月26日18:30分に出国し、ジョン・F・ケネディ国際空港に到着したのが8月26日18:45分。約12時間のフライトであったが、JALのクルーの方々のおかげで快適に過ごすことができた。また、飛行機を降りる際には選手にメッセージカード等を頂戴まし。お心遣いに感動しました。空港では日本旅行の現地スタッフの三好さんに出迎えて頂き、滞在先の「The Manhattan at Times Square Hotel」に到着。当初、空港から1時間近くかかると説明された道のりも三好さんの裏道作戦により40分で到着。こういった少しの時間の短縮も選手には大切な為、ありがたかった。ホテルでは古賀会長がわざわざ出迎えてくださった。本当に心温まる瞬間であった。その後、チェックインを済ませて、近くで日本料理をいただける店へ。昨年の教訓を胸に慎重に値段をチェック！リーズナブルで、店員の方々の対応もとても良いお店でした。まだ日本を出国して1日もたたないのに、日本食を懐かしく感じました。

夕食を済ませ、タイムズスクエアを散策。普段はテレビでしか見る事のない、別次元の街の様子に圧倒されました。24/7がお祭り騒ぎなのだそうです。今回は初の海外である自分には刺激が強すぎました。

散策を終え、ホテルに帰ってそれぞれの部屋で就寝。時差ボケの影響もあり、十分に睡眠を取れるかが心配されます。

今回はUSオープン選手派遣で初めて夕方出国の日程です。時差ボケで体が思う様に動かず調整が難航したこともあったとウィルソンの上田さんに伺いました。今回の日程の組み方が、この後にどう繋がるのが？様々な不安の中での就寝となりました。

8月27日（日）第2日目

武方 駿哉選手

今日は朝 10 時から 12 時でアメリカの方と練習しました。1 日振りのテニスだったので少し不安な気持ちがあったのですが、思っていた以上に体も軽く 1 日目にしては結構良かったと思います。

練習が終わって本会場に移動しました。センターコートの迫力などにとっても感動しました。そして杉山監督、島袋選手と話ができてよかったです。本会場ではプロの方を間近で見て勉強できる部分がたくさんありました。これからも見る機会があるかもしれないのでまた見たいと思います。明日も 10 時からの予定なので明日に備えたいと思います。

里 菜央選手

初めての海外での練習は時差ボケが少々あった為、序盤少し体が重かったですが、沢山ボールを打っていくうちに徐々に動けるようになっていきました。今日は日本人男性の方にラリーしてもらいました。ミスが少なく回転量が多い選手だったのでラリーしていて楽しかったです。練習後はプロの練習を見ました。センターコートでジョコビッチ選手が練習をされていて、それを真横で見ることが出来とても感動しました。明日の練習は女子選手と練習して頂けるみたいなので楽しんで頑張りたいと思います。

時差ボケでなかなか眠れない夜を過ごした代表チーム（1 名を除いては）7 時 30 分にロビーで朝食（コーヒー or オレンジジュース、クロワッサン、リング）を受け取り、近くのブレックファーストを提供してくれるお店へ。特に選手は朝食の量が足りないため、追加でハムサンドに似たものをオーダー。

その後、今年も練習等をコーディネートしていただいている馬場様の車に乗り込み、練習会場である「MAXIMUM Tennis Development Zone」に移動し、10 時から 12 時までの 2 時間練習。

初めは時差ボケの影響もあり体のキレがイマイチではあったが、徐々にリカバリーするあたりはさすが実力者。武方選手は地元の大学生 Emil を相手にまずまずの内容。里選手も地元のジュニア選手（優くん）を相手に熱のこもった練習を行った。練習を終え、USTA ナショナルテニスセンターへ移動、そこで古賀会長の計らいにより、杉山愛選手と 1 日前の予選に勝利し、ウィンブルドン・US オープンと連続で本戦出場を果たした、島袋将選手に貴重なアドバイスをいただく機会を頂いた、世界のトップで活躍されるお二人から直接アドバイスをいただくことは今後の彼らのテニス人生に大きな糧のなることでしょう。

その後、それぞれショッピング等を行い、夕方 16 時にセンターコート（Arthur ash stadium court）を見学。オフィシャルのコートスケジュールには選手の名前がなかったため、コートのみを見学するつもりであったが、なんとそこには世界ランキング No. 1 Novak Djokovic 選手の姿が！手を伸ばしたら届きそうな、場所から練習を見学できたことは非常に貴重な経験となった。後に聞いた話ではあるが、あの席から試合を見るためのチケットは 50 万以上だということである。その後もガウフ選手の練習などを見学することができ、本当に有意義な 1 日となった。



8月28日（月）第3日目

武方 駿哉選手

今日も10時から12時でアメリカの方と練習しました。昨日と違う相手に身長も高くパワーもありましたが対応しながらプレーできたのがよかったです。その後セットをして内容的には悪くなかったのでこの調子でいきたいと思います。

午後は島袋さんの試合や色々なプロの方の試合を見て映像と生で見るのは全然違って試合前にとってもいい刺激を受けました。プロになるとフットワークや戦い方など勉強できたので今後生かしていきたいと思います。明日も朝から練習なので徐々に上げていきたいと思います。



里 菜央選手

今日は色々な選手の試合を沢山見れました。どの選手を見ても球が速いのにも関わらず、ミスが少なくて自分もそんな選手になりたいなと改めて思いました。また、試合中の雰囲気がとても賑やかで接戦な試合ほど盛り上がっていて面白かったです。明日も引き続き集中して頑張ります。



ニューヨーク滞在、3日目の朝を迎えました。ホテルでの朝食を受け取り、近くのブレイクファーストが頂けるカフェへ、持ち込みがOKなので、ホテルの朝食と合わせて美味しく頂きました。

馬場さんに送迎して頂き、昨日と同じ練習会場（MAXIMUM Tennis development Zone）へ、男子は昨日と同じEmil君と、今日からJohnson君が練習に加わってくれました。良い緊張感の中で、貴重な実践経験を積めたことは非常にありがたい時間となった。女子も今日から昨年度も練習を手伝ってくれたLigaya Murray選手とOlivia選手で練習を行った。久々の実践正式であったがヒッティングを務めてくれた2人のおかげで、思いの外良いイメージで練習を終えることができた。



午後からは、島袋選手の本戦一回戦を見る為にUSTA ナショナルテニスセンターに移動した。第4コートの第4試合目に組まれていた試合でした。

1st SET 2ndSET ともに対戦相手のガストン選手の流に支配されて、2-6 1-6で先取されてしまいます。このままかと思われたサードセット、高校時代の監督の徳丸先生（現、US Open 日本代表監督の後押しもあり）起死回生の挽回劇を演じ、一時はサードセットに大きな流れを引き寄せるものの、相手の土壇場でのドロップショットなど、多彩な攻めにより、敗退となりました。

しかし、この試合は、高校進学後、大学という選択をした生徒にとっての希望の光だと考えています。

高校や大学に進学しないエリート教育が主流の中、高校では部活動に全力を注ぎ、大学でも直向きにチームを大切にしてきた選手がグランドスラム大会で堂々と戦えるという後を追う後輩たちにこれ以上ない勇気と感動を与えてくれた試合であった。

本当に余談ではありますが、島袋選手を3年間指導してきた徳丸先生の隣で応援させて頂きました。時折、無言で交わされる2人の会話、そして信頼関係に部活動テニスから世界を目指すという、新たな一筋の光が見えた様な感じがします。高体連から大学に進学した選手がウィンブルドンに続き、世界で戦うという歴史的瞬間を肌で感じることであった幸せな1日となりました。

8月29日（火）第4日目

武方 駿哉選手

今日も10時から12時でアメリカの方と練習しました。今日は初日にやった相手としました。初日とは違って段々と動きなどが仕上がってきてるのでいいと思います。

明日は朝サインインして会場に入って練習するので雰囲気などしっかり感じ取りながら気持ちをあらたに入れ直して頑張りたいです。



里 菜央選手

今日は練習内で振り回しをして沢山足を動かしました。初日と比べだんだん体が動くようになりました。この調子で試合に向けて準備したいと思います。練習後は観光をしました。だいぶ遠いところからですが、自由の女神を見れて良かったです。明日は会場で練習できるみたいなので集中して頑張ります。



ニューヨーク滞在、4日目の朝を迎えました。

本日も、馬場さんに送迎して頂き、昨日と同じ練習会場（MAXIMUM Tennis development Zone）へ、男子は昨日と同じ Emil 君と、Johnson 君が練習に加わってくれました。2人とも本当に気さくなナイスガイで、こちらの要望にも快く対応がしてくれ、最終調整も上々の仕上がりとなってきました。、女子は昨日に引き続き、Ligaya Murray 選手と Olivian 選手と練習を行いました。最終調整としての実践形式であったがヒッティングを務めてくれた2人のおかげで、程よい緊張感を保って練習することができた。トーナメントが発表になっていないので、練習をお願いした、2人が右利き・左利きだったということもとてもありがたかった。練習の最後には徳丸先生から Jason 君へのバックハンドの特別指導が行われた。徳丸先生の指導を真剣に聞き自分のものにしようとする Jason 君の姿勢と、その若者に惜しみなく自分の得た知識や技術を伝えようとする徳丸先生。国は違ってもテニスを楽しむもの同士の素晴らしい空間となっていた様に感じました。



昨日と同じショッピングセンターのフードコートで昼食をいただきました。私が驚いたのは里選手の食事の量です。餃子を食べ、うどんを一人前食べ、差し入れ頂いたパンを3つ食べていました。最近の選手は食が細いと常々感じていましたが、やはり全国のトップに立ち、いつもとは全く違うアメリカという環境でも自分のペースで調整を進められる、そういったタフさの一要因がこういったところからくるのだろうと考えさせられました。

午後は積極的休養も兼ねて、NYの観光を行いました。まず初めにバッテリーパークに自由の女神を見に行きました。少し離れた場所からだったので女神が小さく感じました。この女神が明後日の勝利の女神になってくれることを信じて！

その後、22年前に同時多発テロが起こったナショナルトレードセンター跡地「グランド0」へ、この時期、画面を通してはよく目にする場所であるが実際に現地に足を運んでみると感慨深いものが込み上げてきました。

8月30日（水）第5日目

武方 駿哉選手

今日は朝チェックインをしにいきました。その後チェックイン会場練習相手を見つけ午後から会場で練習を2時間程しました。

雰囲気も少し変わり相手もサーフェスも違い相手は高身長でパワーのある選手だったのですが、自分なりにしっかり調整ができたので良かったです。気持ち的にも菊池先生が気持ちを和らげてくれてとても楽しくできてるのでいい感じです。ついに明日から始まるので試合を楽しみにしながらファイトして頑張ります！



里 菜央選手

今日はサインインをして会場で練習をしました。コートによって全くボールの跳ね方の違いに驚きました。夕食はいつも行っているお店ではない日本食のお店に行きました。沢山メニューがあってまた行きたいと思いました。明日から遂に試合が出来るのが楽しみです。頑張ります。

ニューヨーク滞在、5日目の朝を迎えました。8時15分にホテルを出発し、サインインとクレデンシャルを受け取りに、歩いて5分の場所にあるThe Hilton midtownへ、毎年のことだというのがこのサインインとクレデンシャルの受け取りは緊張する瞬間だそうである。今年はすんなりとサインインとクレデンシャルの受け取りを済ませることができた。プラクティスコートの受付も済ませ、ここからプラクティスパートナーの確保が最重要課題となる。武方選手はクレデンシャルの受付に来ていた選手に積極的に声をかけ、パートナーとの約束を取り付けた。里選手も緊張しながらではあるが、「Can you practice with me?」と英語で話しかけた。その選手たちには先約が入っており練習を行うことはできながったが、自分の力で様々な課題を克服していく事、世界と違う為には自己主張や意思表示を明確にできる事など普段は他の誰かにお膳立てしてもらっている事も、海外・世界で戦う違う為には自分の力で行っていかなければならない。そういった貴重な経験となったに違いない。

明日からの試合会場「Cary Leeds Tennis Center」に移動し、武方選手はサインアップ会場で約束を取り付けた選手とそれぞれ2時間、最後に徳丸監督と30分最終調整を行い練習を終えた。里選手はイギリス在住の日本人である西野菜穂（にしの なお）選手と1時間、練習を行った。その後、3時～4時の1時間、練習の約束をとりつけて笑顔で「See you later!」といって別れた選手が先に会場を後にしていたというアクシデントに見舞われた。急遽、菊池監督とヒッティングを行い、なんとか最終調整を終えることができたが、海外という場所は想定外のことがよく起こる場所なのだとおもしろい。そうされた。

その後ホテルに移動し、夕食は古賀会長にお招き頂き「nippon」という有名な日本料理屋さんに向かった。このお店は錦織選手たちなど著名人がよく訪れるお店で、この日も名前は出せませんが、グランドスラムでチャンピオンになった日本人選手とコーチ、有名な解説者とその奥さんなどがいらしゃった。こういう特別な場所だからこそお会いできる方々と交流できる事も大きな財産となるに違いありません。また、日本から遠く離れたニューヨークで美味しい日本食を試合前に頂けたことは選手にとって大きな喜びになり、試合前の緊張感から少し解放される有意義な時間となったに違いない。心の底から古賀会長に感謝したい。

夜の9時近くになって、明日のドローとOPが発表になり、明日のスケジュールの打ち合わせを行って解散となった。

いよいよ明日は、予選1回戦！日本代表という誇りをパワーに変えて、全力で勝ちに行ってもらいたいです。

8月31日（木）第6日目

武方 駿哉選手

今日の試合では序盤から空気にのまれてしまい中々自分のプレーを出すことができず固いプレーになってしまいました。セカンドセットに入ってから相手と対等に打ち合えたもののところどころミスが出てしまいました。しかし試合を通して課題が沢山見つかりいい経験となったのでこれからのテニスに活かしていきたいです。明日は会場に行っていていろいろな選手を見てしっかり勉強していきたいと思います。

里 菜央選手

初めて海外で試合をしました。1回戦から3シードの選手との対戦で苦しい場面が何回もありましたが、沢山の応援のおかげでなんとか勝つことが出来ました。大事な場面で気持ちが引いてしまい弱気になっているシーンがいくつかあったので次の試合からは思い切って強気でプレー出来るように頑張ります。明日の試合も楽しみです。

武方選手は9時から9時半まで練習を行い試合に入った。序盤は硬さが見られたが徐々に緊張も取れ彼本来のテニスを展開できるようになったが、相手選手の試合運びのうまさになかなかゲームを奪うことがでずにファーストセットを0-6で落とした。2ndセットに入ると武方選手らしい多彩な攻めなども見られるようになったが、2-3となった長いゲームをキープすることができずに、セカンドセットも押し切られる展開となった、負けはしたものの、日本代表として恥じないような相手とファイトする試合内容であった。同じ代表チームとして武方選手と戦えたことを誇りに思う。

緊張した面持ちでコートに入った里選手ではあったが序盤戦の大きな鍵を握る立ち上がりのファーストゲームを相手のバックハンドのアンフォーストエラーにも助けられてキープすることができた、対戦相手の Emily SARTZ-LUNDE（ノルウェー）の強烈なサーブからなかなかリターンゲームでチャンスメイクをすることができなかったが3-2で迎えた第6ゲームの少ないチャンスを活かして先にブレイク成功し、5-2とリードする展開に、一進一退の攻防から驚異的な粘りを見せタイブレーク7-5で1stセットアップとした。

2ndセットは先にブレイクを許す苦しい立ち上がりではあったがブレイクバックに成功し3-3となる。第7ゲームではチャンスもあったが相手のサーブに押し切られる形で3-4となる。勝負所の第8ゲームで先にブレイクされセカンドセットを3-6で落とした。

FINAL SETは10pointのsuper tie break方式となっており、どちらに軍配が上がってもおかしくない状況であった。ここで里選手は2ndsetを落とした流れを払拭するように本来の粘り強いテニスで一時は4-0とリードする。最初のチェンジコートは4-2で折り返した。そこからはリードしては追いつかれると言った一進一退の激戦となった。一時は3点差をつけ6-3のなるも相手選手も持ち味である攻撃的なテニスを貫き、文字通りの死闘となった。最初にマッチポイントを握ったのは里選手だった。9-8でサービス権が相手選手に移動した、そこでは目を疑うような強烈なサーブを決められて9-9のデュースとなった。次にマッチポイントを握ったのは相手選手。その後、3本のマッチポイントを握られるも驚異的な粘りを見せ13-12とした。里選手の2本目のマッチポイントで相手選手がドライブボレーをアウトし試合終了となった。

常に相手選手に先に展開されるという苦しい試合ではあったが、どんなボールも決してあきらめないという里選手の一球に対する執着心がもたらした勝利であった。



9月1日（金）第7日目

武方 駿哉選手

今日は午前中男子の試合を見ました。自分になにが必要なのかみんなと何が違うのかって言うのを考えながら見ると沢山やらないといけないことがあったので一つずつ克服していきたいです。

午後は女子の里選手の応援をしました。終始自分のプレーでしぶとくプレーするところは本当に素晴らしかったなのでこのまま頑張りたいと思います。

その後ホテルに戻り徳丸先生と菊池先生の3人でセントラルパークに行ってきました。とても広くて1時間半ぐらい歩き緑の自然とたくさん楽しい会話をしながら散歩し帰りは時間に追われながら走ったりして時間をかせぎながら帰ったのはとても楽しかったいい思い出です。明日はオフなのでゆっくりしたいと思います。



里 菜央選手

今日は予選決勝でした。ファーストセットを取りつつもセカンドセットで非常に長いラリーが続くととても苦しい場面が沢山ありましたが、応援のおかげでなんとか勝利することが出来ました。夕食はニューヨークで1番美味しいステーキのお店に食べに行きました。お肉が凄く分厚くて言葉に出来ないほどの味でした。デザートはクリームブリュレもサイズが大きくて驚きました。本当に美味しかったです。明日は空き日なので、ゆっくり休んで明後日の試合に備えたいと思います。



いつものお店で朝食を済ませ、タクシーで会場に移動しました。オフィシャルのバス等では負担が大きすぎる、こういった選択をさせていただけることが勝ちに行く為に非常にありがたく感じます。11時から30分間、菊池監督と練習を行い、試合に備えました。昨日の試合の疲労もあり万全の状態でもコートに入れた訳ではありませんでした。体力的な面をチームの全員が心配した中での試合でした。

しかし、試合が始まると周囲の心配をよそに戦闘モードに入り、昨日同様に粘り強く戦う里選手がコートに立っていました。1stセットは里選手のディフェンス力と多彩なショットバリエーションが相手選手を翻弄し6-1とします。2ndセットに入っても里選手が圧倒的にゲームを支配し、4-1リードとします。

しかし、ここから一筋縄でいかないのが世界のトップで戦うジュニア戦士。攻撃的なネットプレーを織り交ぜ、一次は5-4まで詰め寄られてしまいます。しかし、迎えた第11ゲームのサービスゲームを本当に長いラリーの末にキープして勝利を収めることができた。

この遠征を通して女子選手、初の本戦出場となり、歴史を塗り替えた瞬間となりました。後に里選手も言っていたが、この代表チームがほんとうにまとまったOneteamになれていることが勝因の一つだと思う。

来年の代表選手・チームにもそういった関係を作ってもらえたらと思います。



9月2日（土）第8日

里 菜央選手

今日は試合が無く空き日でした。昨日の試合がタフマッチだったこともあり、今日は筋肉痛ながらも少し練習をしました。走るだけでも痛みが出てしまい、普段の自分がどれだけ動けていないか痛感した日になりました。明日は遂に USOPENJUNIOR の本戦が始まります。このような最高の舞台でプレー出来ることに感謝の気持ちを持って戦いたいと思います。明日も楽しんで頑張ります。

今日は、朝8時から予選通過者を含めた、本戦のサインアップと本戦用のクレデンシャルの受け取りをおこなうことがまずしなければならないことです。場所はヒルトンホテルでした。我々は朝食を済ませて、8時10分くらいにヒルトンホテルに到着したが、その時には長蛇のレッドになっており、次回からは7時半くらいには現場到着したほうが良さそうです。そこからダブルスの受付が始まるのですが、シングルのメインドローに入った選手でペアを作っていくので、今日からペアを探し始めた日本チームは出遅れていた。ダブルスに出場をする可能性が1番高いのが本戦同士のペア。その次は本戦選手とラッキールーザーとなる。本戦ストレートの選手はあらかじめペアを決めている場合が多いので、予選の決勝が終わった瞬間からペアを探したほうが良い。そういったことを全く把握していなかった自分の責任で里選手のダブルスでの本戦出場はとても厳しい状態となった。あの手この手で全力は尽くした。予選上がりの選手にインスタでメッセージを手当たり次第に送信したり会場にいる日本人選手に声をかけたり。でも、結果は虚しく、今日の段階でペアを見つけることができなかった。

来年度以降はこの反省を生かして、シングルスだけではなく、本戦でもダブルスに力を入れてもらいたい。それに為には、予選が終わった瞬間からペアを獲得する為にアクションを起こしてほしい。

その後、14時から三十分回オフィシャルのプラクティスコートで練習を行いました。プラクティスコートはUSTA ビリージーンキング・テニスセンターです。世界中のテニスプレイヤーの憧れのコートでボールを打てることに胸の高鳴りを感じながらの練習でした。16時からプレイヤーズ・コーチミーティングに参加した。4名の元世界のトッププロが集まり、ディスカッション形式で会が進められた、元世界のトッププロの話を間近で聞くことができ非常に有意義な時間となった。

今夜の夕食で男子監督の徳丸先生と武方選手とはお別れとなる。チーム JAPAN が本当にまとまった1チームとなっている今、2人が帰国してしまうのがほんとうに悲しい。

それほど結束の硬い、素晴らしいチームになっていたとかがえている。

徳丸先生・武方選手、日本の誇りを胸に堂々と戦う姿が今でも脳裏に焼き付いています。本当にお疲れ様でした。



9月3日（日）第9日

里 菜央選手

今日は本戦初日でした。初めてのボーラー付きでの試合はとても緊張しましたが、応援のおかげで楽しんで勝つことが出来たので良かったです。明日はシングルス第1シードとの対戦ですが、後悔なく自分のプレーを最大限に発揮出来ればと思います。また、シングルス終了後にはダブルスもあります。初めてのペアリングで緊張していますが、楽しんで頑張りたいと思います。

朝7時15分にホテルを出発し、ヒルトンホテルから出ているオフィシャルのシャトルバスに乗り、会場に向かった。会場に着く直前のバスの中で、奇跡が起こった。昨日、ダブルスのパートナーを1日中血眼になって探していたが、なかなか見つからず、当日の朝の9時のサインインの状況確認に、最後の望みを託そうとしていた。そんな最中、今大会のシングルの第4シードであり、ジュニア世界ランキング4位である、斎藤咲良選手からダブルスのオファーが届いた。その瞬間、里選手を始めとするチーム全員が喜びに包まれた。この時本当に諦めずに、パートナーを探し続けてよかったと、心の底から思った。その後、斎藤選手と2人でサインインを済ませ、9時から9時半まで試合コートである court10 で練習を行った。

ちょうどこの頃、徳丸監督と武方選手が帰国するためにホテルから JFK 国際空港に専用車で向かったという報告がありました。JFK 国際空港から JAL005 便で日本に飛び立ったのは 13 時 30 分でした。

里選手の試合が始まったのは、現地時間の 12 時 30 分である。試合が行われるコートはプロの選手が試合を行うコートと全く同じで、ボールパーソンがつき、審判はすべてコンピューターによるものである。対戦相手は同じ予選から勝ち上がった選手でした。里選手は、これがはじめてのグランドスラム大会の本戦とは思えない。落ち着いた立ち上がりでファーストセットの主導権を握り終わってみれば 6-1 というスコアでファーストセットを取ることができた。セカンドセットも 2-0 とリードを奪ったが、そこから相手選手のドロップショットを交えた多彩な攻撃にポイントを奪われ、一次は 2-3 とリードを奪われる苦しい展開になったが、そこから本来の里選手のテニスを取り戻し、セカンドセットを 6-3 でもぎとり勝利を収めた。今回のこの勝利は、この US オープン派遣事業始まって以来の快挙だと聞きました。テニスも若年齢化が進み、世界と戦うために、10 代前半から海外に拠点を置く形をとる選手もいます。そういった選手がテニスに全てをかけて、日々練習に励んでいる姿も、今回の遠征で目の当たりにしました。それも本当に素晴らしいことだと思います。今日の里選手の戦う姿を見て、高体連所属の選手でも世界と戦える可能性があると感じられる試合でした。試合が終わりラウンジで食事等を済ませ、明日のダブルスパートナーである。斎藤選手と 4 時から 4 時半まで練習を行い、ホテルに戻りました。その後夕食を済ませ、明日の試合に備えました。明日はシングルの 2 回戦とダブルスの 1 回戦が行われます。タフな 1 日になると思いますが、頑張ってもらえるように全力でサポートしたいと思います。



9月4日（月）第10日目

里 菜央選手

今日はシングルス第1シードとの対戦でした。思った通りやはりボールが重くサーブがとても速かったです。結果負けてしまいましたが、楽しんで出来たので良かったです。ダブルス1回戦では、リードされる場面も沢山あった中ペアと話しながら楽しく出来、なんとか勝利することが出来ました。2回戦も楽しみながら頑張ります。

今日の試合が、コートの2周目の試合であったために少し余裕を持ってホテルを出発した。朝のプラクティスは11時から11時30分までの30分間であった。

練習を終え、プレイヤーズラウンジで試合までの時間を過ごした。里選手の試合が始まったのは、12時30分であった。相手は今大会の第1シードであるRENATA JAMRICHOTA (Slovakia) という選手であった。サウスポアの選手であり、とにかくフィジカルが強く球威もシニアの選手と遜色のないようなプレーをする選手であった。いきなり第一ゲームを落とす、苦しい展開であったが、何とか3ゲーム目をキープして、1-2となったときに、降雨によるサスペンデッドで試合が15分以上中断した。再開後も相手選手の高い打点から繰り出される常に105マイル(170キロ)以上のファーストサーブや、少しでも甘いボールに対してコートの中に入って強打してくる正確なストロークに常に圧倒された展開であった。これまでの対戦相手とは、全く別次元のテニスをする選手で、これが、本当の世界の力だと痛感させられる内容であった。そういった選手を相手にしても、里選手は堂々と戦う姿が見られた。敗れはしたものの、グランドスラム大会(ジュニア)で、本戦の1ラウンドを勝ち上がり2ラウンドでジュニア世界最高峰の選手と対戦できたことは十分に賞賛に値すると考える。

気持ちを切り替え臨んだ、午後のダブルスではV.osuique・T.Rabman(USA)選手を相手に、7-6(3) 7-5というスコアで見事にベスト16入りを決めた。はじめてのペアリングで硬さも見られた2人であったが、試合が進むにつれコンビネーションも良くなり、随所に里選手らしいポーチなどの積極的なネットプレーも見られた。先にブレイクされてはブレイクバックをするという、本当に厳しい戦いであったが、1フォーメーションや、ロブ攻撃など相手の意表をつくような作戦も功を奏し、激戦をものにすることができた。

明日はダブルスの試合はなく、明後日試合が入る予定である。明日は、会場での公式練習に汗を流し、休息を含めてしっかりと調整を行う予定である。明後日行われるであろう、ダブルスのベスト8決めの試合に集中して取り組んでいきたい。



9月5日（火）第1日目

里 菜央選手

今日はオフ日で沢山寝ることが出来、ゆっくり出来ました。いつもより気温が高く暑い中での練習でしたが、1時間しっかりと動くことが出来ました。明日はダブルス2回戦です。結果にこだわり過ぎずに自分が出れることを全部出し切って思いっきりプレーしたいと思います。

今日は、ダブルスの2回戦がスケジュールに入らなかったため、連戦の疲れを取るための1日となった。10時半のシャトルバスに乗り、11時15分ごろ会場に到着。それからプラクティスコートの予約をダブルスのパートナーである斎藤咲良選手と行き、プレイヤーズラウンジで昼食をとった。選手に発行されるクレデンシャルズカードの中には毎日50ドルの支給があり、その支給された金額の中で、昼食や果物、飲み物等を自由に買うことができる。またショップでもプレイヤーであれば3割引になるなどの特典がある。予選と本戦の扱いが全く違うのである。昼食を済ませ、1時から2時まで、斎藤選手と練習を行った。シェアコートであったため基本的なストローク、ボレー対ストローク、サーブ・リターンなど基本的な内容の確認で1時間を終えた。極度の緊張感の中での試合なので、予想以上に選手にとっての疲労は大きい。今日は疲れを取るためにも、有意義な1日になったと思う。また、空いた時間を見つけてジョコビッチ選手の試合などを観戦した。コーチに与えられるクレデンシャルカードで、アーサーアッシュスタジアムコートの指定席以外には立ち入ることができる。選手の試合や練習のスケジュール優先ではあるが、せっかくの機会なので、トッププロのシングルスやダブルスの試合を見に行く時間は積極的に作って行きたい。ジョコビッチ選手の試合を観戦して感じた事は、テニスを完全なSHOWとして捉え、会場の雰囲気を作り上げている演出のすごさである。日本で行われる大会等でもこういった演出によってファンを増やせるのではないのでしょうか。また、高体連でもこういった取り組みが必要なのは・・・などと考えさせられました。明日は14番コートの2週目にダブルスの試合が組まれている。ベスト8進出を目指して、斎藤選手と力を合わせ頑張ってください。



9月6日（水）第12日目

里 菜央選手

今日はダブルス2回戦でした。試合はファイナルセットで10ポイントタイブレークにかかり、なんとか勝利することが出来ました。ミスが多かったですが、積極的にポーチやストロークでのアタックをすることが出来大事な場面で打ち切ることが出来ました。次の準々決勝でも強気でプレーして楽しみながら頑張りたいと思います。

本日はダブルスの2回戦がスケジュールに入っているため、朝7時に朝食を済ませ、8時半のオフィシャルのシャトルバスに乗って会場入りした。会場では試合コートである。コート14で10時から10時30分まで練習を行い、11時からダブルスのパートナーである。斎藤咲良選手の女子シングルス3回戦を応援した。斎藤選手は6-1、6-4で勝利しベストエイト進出を決めた。その後1時間半のレストの後、午後2時から女子ダブルスの2回戦が始まった。ファーストセットは、リードする流れもあったが、相手選手も粘りを見せ、5-5までもつれる展開に、そこから2ゲームを連取し、7-5でファーストセット取った。セカンドセットは先にブレイクを許す、苦しい展開であったが、粘りを見せ一進一退の攻防となった。しかし、要所要所で、相手のパワープレイが勝り、セカンドセットは4-6で落とす展開となった。ファイナルは、ポイントのスーパータイブレークで行われ、一進一退の攻防が続き、リードしても、追いつかれる手に汗を握る展開であった。試合を分けたのは7-7の場面で、里選手が放ったバックハンドのストレートのパッシブである。会場もどよめく、スーパーショットをこの緊迫した場面で放つことができるのが、里選手の強みである。そのままにポイント連取し、スーパータイブレーク10-7で勝利し、ベスト8進出を決めた。明日は、ベスト4をかけ、QFを戦うことになるが、日本ペアらしいテニスで堂々と戦ってもらいたい。



9月7日（木）第13日目

里 菜央選手

今日はダブルス準々決勝でした。ファーストセットでは相手の勢いに押され1-5と大きくリードされる場面がありましたが、積極的に自分たちから前に前にと展開していったことでタイブレークでセットを取れました。その勢いでセカンドセットでも同様に自分たちから仕掛けていったことでセットを取ることができ、勝利することが出来ました。明日もシングルスと同じく第1シードとの対戦です。次の試合でも自分たちらしく楽しくプレーしたいと思います。

今日は試合開始が11番コートの3周目ではあったが、1周目に入っている、斎藤さんの試合を応援するために、昨日と同様の日程を取った。シングルスクォーターファイナルでは、惜しくも1-6、4-6のスコアで敗れた。世界の選手の層の厚さを痛感する試合であった。里選手のダブルスのクォーターファイナルが入ったのは、午後4時過ぎであった。相手はアメリカの注目の双子選手である

A. Penickovaus・K. Penickovausであった。試合の序盤は、相手選手の息の合ったプレーに翻弄され、1-5と大きくリードを許す展開であった。流れが変わったのは、1-5の里選手のサーブをキープしてからであった。このキープをきっかけに、日本チームの積極的なポーチが決まり始める。相手選手は、ボールの威力こそ素晴らしいものはあるが、ダブルスの展開力では、日本チームの方が上であったように思う。そこから怒涛の5ゲーム連取に成功し、6-5とリードを奪うが、結局タイブレークにもつれ込んだ。しかし、ここから日本ペアは絶妙のコンビネーションを見せ、7-1でファーストセットをものにする。セカンドセットも、日本ペアの勢いは衰えず、結局セカンドセットは6-0で奪い勝利を収めた。

この勝利により、USオープン Jr ダブルスセミファイナル進出が決定した。明日はファイナル進出をかけて試合をすることになる。ベストを尽くして勝負に行ってもらいたい。



9月8日（金）第14日目

里 菜央選手

今日はダブルス準決勝の予定でしたが、雨の影響で前の試合が長引き明日に変更になりました。待ち時間はとても長かったですが、いつもより練習を沢山して体を動かすことが出来たので良かったです。また、ラウンジにビリヤードがあったので皆でやりました。私は絶望的に下手でしたが、楽しかったです。明日でUSオープン最終日です。まさか自分が最終日まで残れるとは思ってもいなかったのびっくりですが、最後まで諦めず楽しんでプレーしたいと思います。

今日は試合開始が10番コートの3周目であったので、いつもよりも余裕を持ってホテルを出発した。練習はダブルスのパートナーである、斉藤選手と1時から2時まで本会場の5番コートで練習を行った。USオープンの試合会場で練習できることが当たり前となっているが、本来であればこういった機会は考えにくいものである。しかし、世界と戦うためには、こういった感覚が必要なのだろうと思う。練習を終え試合を待っていたが、落雷と雨天の予報により、対戦相手の1試合目の試合がサスペンデッドとなっていた。対戦相手のシングルのセミファイナルが入ったのは、夜の19時前である。その間に、斉藤選手とウォーミングアップを済ませ、試合に備えたが19時45分の時点で本日举行される予定であった、ダブルスの準決勝はキャンセルとなった。本来であれば今日試合を行いたいのところではある。結局、相手選手がシングルスで敗退したために、明日ダブルスのセミファイナル、ファイナルが行えるという計算なのであろう。今日、セミファイナルを戦うために準備をしていたが、それが叶わないことがわかった。今日日本チームにできる事は、明日に向けて最善の準備をすることだけである。どちらにしてもグランドスラム大会の最終日に高校日本代表の選手が残った事は事実である。明日はいよいよ最終決戦の1日である。全国の高校生の全ての思いを背負い、里選手に悔いの残らないよう、思いっきり自分のテニスを明るく元気にやってほしい！



里 菜央選手

今日はダブルス準決勝と決勝でした。

準決勝では第1シードとの対戦だったものの引かずに積極的なプレーすることが出来、勝利することができました。

決勝ではファーストセットを取り、セカンドセットでもリードしてましたが、大事なポイントで相手のサーブで崩される場面が沢山あり、自分たちのプレーが良かったもののファイナルセットで負けてしまいました。

優勝まであと少しだったので悔しい気持ちはありますが、楽しく思い切って試合出来たし、また、このような素晴らしい舞台の決勝に出させてもらったことに感謝したいと思います。

今回の大会で色々なことを学ばせてもらったので、帰ってまた練習頑張りたいと思います。

本日は、ダブルスの準決勝と決勝が行われる日である。ダブルスの準決勝が入る予定が11番コートの12時であるため、朝9時のオフィシャルバスに乗り会場入りした試合前のプラクティスは、ダブルス、パートナーである斎藤選手と30分間行った。そして、予定通り、12時から試合が開始された。対戦相手は、第一シードのR.Jamrichovask・K.Quevedous組でした。試合が始まると、序盤から2人の積極的なネットプレーなどが随所に見られ、ファーストセットを6-2で選手した。セカンドにセットに入って、相手も日本ペアのテニスに対応し始め、劣勢に立つされる場面もあったが、緩急を織り交ぜたペース配分により、セカンドセットも6-3でとり、決勝進出を決めた。

決勝は当初、現地時間の14時45分N・Bであった。しかし、落雷の影響で試合開始時間が17時と発表された。17時にプレイヤーズラウンジ前のロビーにいったん集合したが、そこから降雨による待機となり、結局試合が始まったのは、現地時間の18時であった。その間試合に向けての集中力を保ったり、色々コンディション作りの難しさを感じた。決勝戦の相手M.Geard・A.Gurevaは、今大会の第8シードのペアであった。2人とも180センチを超える長身の選手であり、ビックサーブを武器としていた。日本ペアは、相手の強烈なサーブも、しっかり返球し、ファーストセットを2度のブレークを含む、6-1で先取した。この時点で日本ペアのサーブからのポーチ攻撃やロブ攻撃。ペアのボールに対応しての積極的なネットプレーなど、相手を翻弄するような内容であった。セカンドセットも一時は2-0とリードする展開。しかしそこから相手も粘りを見せ、一進一退の攻防が続く、それでも少ないチャンスをものに4-2とリードした。続く第7ゲームをブレークされ4-3。立て続けにキープされて4-4と言う展開になった。これは、個人的な自分の感想であるが、ポイントを取るパターンが固定化されてしまっていたように思う。4-5から斎藤選手のサーブをキープし5-5に落ち込んだ。そこから2ゲーム取られ、セカンドセット5-7で落とした。そして運命のファイナルセット。テンポイントの街タイブレークとなった。セカンドセットをとった。勢いそのままに相手ペアにリードを許す苦しい展開。一時は4-7とリードされたがそこから挽回を見せ、4ポイント連取し8-7とすることに成功した。しかしここから相手選手の強烈なサーブ、2本でポイントを奪われ8-9となり最後は斎藤選手の放ったバックハンドがベースラインをわずかに越えゲームセット。世界一と言う夢は、この瞬間ついた。それからホスピタリティを受け取りにオフィスに向かい、一泊あたり200ドルの宿泊費の補助を受け取った。予選と本戦の選手の差は本当に大きい。





9月10日（日）第16日目

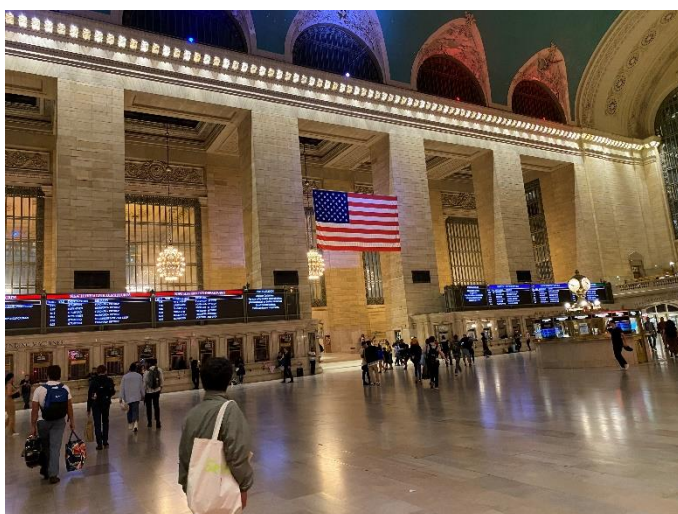
里 菜央選手

今日は沢山寝て、晩御飯は高級焼肉店に行きました。

お肉がとても柔らかくて本当に美味しかったです。美味しすぎて沢山食べてしまいました。普段なら絶対に行けないようなお店で、しかもニューヨークで食べることが出来て本当に感謝しかないです。明日の朝ホテルを出発し帰国します。今回の遠征で貴重な経験をさせて頂いて、沢山学ぶことが出来て色んなものを得ることが出来ました。この経験が今後の人生に活かせるようにこれからも頑張ります。本当に有難うございました。

今日は昨日の試合の疲れを取ることを優先にホテル等でゆっくり過ごし、洗濯やホテル近辺の散歩のみとなった。あいにくの雨だったということもあり、観光などという気持ちにはならなかった。慣れないニューヨークという土地で、世界を相手にしての連戦は想像以上に疲労を蓄積させるものである。例えば、選手の洗濯などについても、日本では当たり前のコインランドリーであるが、現地ではそうはいかない。勝負にアメリカに渡る以上、選手が試合に全力で集中できる環境を整える必要性を感じた。

夕食は日本旅行の招待に預かり、地下的を乗り継いで3駅ほどのTORAJIという焼肉屋さんに食事に出かけた。日本でもなかなか食べられないような、美味しいお肉を頂き、体の芯から元気をいただきました。そして、最後には現地の日本人である高橋様から里選手への労いのデザートが出されました。今回の遠征を通して現地の日本人の方のサポートやお心遣いを心からありがたいと感じました。日本を遠く離れた今でも、ルーツが同じであるということで、惜しみなくエールを送ってくださる。日本を愛する気持ちがそうさせるのだと思いますが、そういった人の温かさに触れることができた遠征でした。本当にありがとうございました。



9月11日（月）第17日目

9月12日（火）第18日目

本日がニューヨーク滞在最終日となる。9月11日は22年前にアメリカ同時多発テロの起こった日である。アメリカにとっても世界的に見ても歴史が動いた9月11日にアメリカに滞在することに感慨深さを感じました。グランド ZERO にも足を運び、二度と同じような過ちを繰り返してはならないと心に刻みしました。

最終日の朝食は幾日も通った近隣のカフェに行きました。何日も通ったカフェも今日で最後だと思うと、少し寂しさを感じました。何日も通ったからなのか、カフェの店員さんに記念撮影をお願いされたこと。大会当日には会計の際に「GOOD LUCK」と声をかけて頂いたことを思い出しました。ニューヨークの方々はとても温かい人が多く、「HAVE A NICE DAY!」と声をかけて頂き嬉しく感じる事が多々ありました。自分にとって初めての海外遠征で何かと不安な事が多かったですが、こういった言葉に勇気をもらうことができました。

9時30分に18日間、お世話になった「MANHATTAN AT TIMES SQUARE HOTEL」を後に、JFK 国際空港に向かいました。出国審査をスムーズにクリアし、出発ロビーで最後の買い物をして、JAL005 便で日本に向かいました。使用機遅れの影響で当初の予定である13:20発ではなく、14:15分発となりました。これから14時間30分のフライトとなります。

羽田空港に到着したのは日本時間の9月12日17:45分であった。そこから入国審査を受け、到着ロビーにそこにはなんと古賀会長の姿が!!!わざわざ代表チームを出迎えるためだけに福岡から来られたんだと分かり、涙が出そうになったのを覚えています。会長だけではなく日本旅行の方々、JALの方々、たくさんの方々が出迎えに来て頂き感激しました。自分は宮崎便の搭乗時間が間近だった為に、ここでお別れとなりましたが、その後、記者会見が開かれました。日本に到着して、US オープンジュニアで里選手と代表チームが為し得た事の大きさを改めて実感しました。



武方 駿哉選手 US オープンジュニアを振り返って



まず初めに、今大会サポートしてくださった、古賀会長をはじめとする先生方、Wilson さん、日本航空の方、そして応援に来てくださった現地の皆様本当にありがとうございました。

今大会試合や生活を通して色々な経験をする事ができました。

僕は初めて海外で試合に挑戦し、自分の思っていた以上に緊張で出だしが悪くなかなか最初から戦えませんでした。自分の出せる力は出せての結果なのでやはり世界の壁は高いものだと思えて痛感しました。この経験を活かしてまたさらにレベルアップしていきたいと思います。

また海外の方達は一人一人が色々な考え方をして自分がどれだけ小さい事で悩んでいるかが改めてわかったので小さい事でも気にせず自分の意志を強く持って突き進んで行きたいと思います。

そして今大会最初から最後までずっとそばで一緒に戦ってくださったりサポートしてくださった徳丸先生には1週間という短い間でしたが、楽しく練習などができ、とてもいい思い出を作る事ができたので本当によかったし感謝しかありません。ありがとうございます。

最後に日本から応援してくださった皆様本当にありがとうございました。

まず全国選抜優勝おめでとうございます。

そして目標だった4大会の一つであるUS オープンジュニアの予選へ出場することは素晴らしい事です。世界でも有名なアメリカでの生活や世界の選手とのレベルについていけるか不安は多少あると思いますが、まずはUS オープンに出れる誇りや自信を持ってなおかつ楽しむことが大事だと思うので、楽しみながら勝ち負けにこだわって全力でプレーしてきてください。そして最後まであきらめずにがんばってきてください！

心より健闘を祈っています！

里 菜央選手 US オープンジュニアを振り返って



今回の遠征で、沢山のことを経験し、様々なことを吸収できました。

遠征に出発する前までは旅行気分もすこしあったのですが、遠征中に沢山の方々が私の為に色々なサポートを下さる姿を見てこれは結果でお返ししなければと思いました。

シングルスでは予選を勝ち上がり本戦1回戦を勝利することができ、またダブルスでは準優勝をすることができました。

初海外で分からないことだらけでしたが、周りからの支えがあったおかげで楽しく過ごすことができました。

スポンサーの皆様、帯同してくださったコーチの皆様、貴重な経験をさせて下さり本当に有難うございました。

来年出場する選手へ

個人戦優勝おめでとうございます。

私は予選1回戦で相手のマッチポイントが3回ありましたが、諦めなかったおかげで本戦に出場することが出来、ダブルスでは本戦決勝という舞台に立つことができました。皆さんも最後まで諦めずに楽しくプレーして欲しいなと思います。頑張ってください！

USオープンジュニアに帯同して

男子監督 四日市工業高校 徳丸真史

今回、高体連テニス部の代表としてニューヨークの地で経験できたことは、大きな喜びと今後のモチベーションにつながったと感じています。また、今までのテニス人生を振り返ることができ、感慨深い時間を過ごしました。自身が高校生の時も高体連の日本代表として戦ってきたので、こうして監督としての立場から頑張る選手をサポートできたことは幸せな瞬間でもありました。

男子の武方選手は海外経験が少ない中で、大会までの準備、コミュニケーション、気持ちの保ち方など自分なりの工夫をしながら臨めていました。試合は予選シードのイタリア選手にストレートで敗退となりましたが、スコア以上に競ったゲーム内容で最後までチャンスが掴めるようファイトしていました。全国各地のテニスを頑張っている高校生の憧れの場で、しっかりとした戦いをしてくれたことは次の世代にもつながっていくと思います。

大きく感じたのはチーム力です。古賀会長を中心に、佐藤団長がリーダーシップをとり、明るく前向きな雰囲気でごさせたことは選手にも良い影響が出たと思います。また、女子の里選手の予選クリアから決勝戦まで進めたことは、指導者の我々にとっても自信と感覚が身についた瞬間でした。

最後になりますが、この大会に出場するにあたってのたくさんのスポンサー、関係者のご尽力に感謝します。現地ではアメアスポーツジャパン株式会社の上田様の軽快なフットワークは非常にありがたかったと感じます。また来年、選抜大会で熱い熱い試合が繰り広げられ、高体連でチャンスを得た選手が世界で堂々とプレーすることを楽しみにしています。

ありがとうございました。



USオープンジュニアに帯同して

女子監督 宮崎商業高等学校 菊池 誠

ここまでたどり着いたからこそ味わったこれ以上ない悔しさでした。でもここまでたどり着いたからこそ味わった悔しさでした。日本の高体連所属の選手が、まさかグランドスラムの決勝戦を戦うとは夢にも思いませんでした。この夢の続きは、来年の選抜個人戦のチャンピオンと来年選ばれる帯同監督に託したいと思います。そして、来年の帯同監督を努められる先生方に、微力ではありますが自分が経験したこと、感じた事をこの報告書にまとめてさせて頂きました。

自分がこの遠征を通して感じた事は、高体連に所属し部活動という形でテニスを志しても世界で戦える可能性はあるということです。今回USオープンの男子シングルスで予選を勝ち抜き見事に本戦に出場した島袋選手も四日市工業出身です。今回の里選手も日本の高校生が世界と戦えることを証明してくれたのではないのでしょうか。今回の結果を偶然と捉える人もいるでしょう。確かに、里選手のデータはほとんどなかったと言っても過言ではありません。世界を転戦するジュニア選手間には、そういった情報網が張り巡らされていて、齋藤選手のコーチである松田さんもその情報がないということが武器になると話しておられました。とはいえ、偶然で勝てるほど世界は甘くありません。里選手に18日間帯同して感じた事は、彼女が世界と戦うことに対して全く動じなかったという事です。試合前に不安を吐露する事もありましたが、ひとたび試合が始まると、自分のテニスに自信を持って戦う姿がありました。対戦相手が誰だろうと、全力を尽くす、試合が始まれば自分の持てる力を振り絞って相手に立ち向かう。粘り強く戦い、決して諦めない。インターハイや選抜で日本の高校生が戦う姿勢と全く同じ姿勢で里選手は戦い続けました。「USオープンだからとか、海外の選手と戦うから。」といったよそ行きのテニスをする事は一切なくただひたすらに自分のテニスを貫いたからこそ為し得た偉業だったように考えています。日本の高校生、そして指導者の先生方も、部活動を通して人間性を養い、チームを大切にするという部活動の方向性は間違っていないのではないのでしょうか。おこがましいかも知れませんが、今回の遠征を通してそんなことを考えていました。

だからこそ、宮崎に帰ってもこれまでと同じように、選手と共に汗を垂らして、共に成長し、泣き笑いしながら部活動テニスを貫いていきたいと心から思います。

今回、このような機会を作っていただいた全国高体連の先生方、古賀会長を始めとする選抜実行委員会の方々、日本旅行の関係者の方々、献身的にバックアップくださったアメアスポーツ（Wilson）の上田様、松澤様。日本航空の関係各位。ウェアを協賛いただいたBEAMS様。アメリカでお世話になった馬場様。そして、毎日応援に駆けつけてくださった、塚本さん！まりこさん！洗濯などして頂き、応援にも来てくださった高橋様ご夫婦。JAPANの旗をもって応援くださった西潟様。数え上げればきりが無い程たくさんの方々のおかげで、今回最後まで戦い抜くことができました。本当にありがとうございました。そして、ダブルスを組んでくれた斎藤咲良さん、そしてコーチ、松田さん、柴原さん、あの1通のDMから全てが始まりました。これからも世界を転戦され、いずれはプロとして活躍されることと思いますが、これから先もずっと応援させてもらいたいと思っています。最後になりますが、佐藤団長をはじめとする「2023 US OPEN JUNIOR 日本代表チーム」に心から感謝します。



2023 US OPEN JUNIOR 日本代表「最高のチームでした」

USOPENJr 派遣事業

～～～ 選抜から世界へ 20年目の挑戦 ～～～

団 長

全国高等学校体育連盟テニス専門部 副部長 佐藤直樹

全米オープンテニスJrテニス大会派遣事業は2003年から開始され丁度20年目の節目となりました。また、全米オープンテニス大会も50回目となり記念すべき大会でもあります。

この事業も“選抜から世界へ”と声をそろえて実施していましたが、結果を出すことが難しいところがありました。今回出場した男子・武方駿哉選手（柳川高） 女子・里菜央選手（相生学院）は日本の高校生の代表として頑張ってくれました。また、男子監督の徳丸真史先生（四日市工業）や女子監督の菊池誠先生（宮崎商業）には試合までの練習や選手のケア等細心の注意を払って行っていただきました。また、アメアスポーツの上田篤様、現地で同行していただいた松澤猛様。自費で参加していただいた古賀賢会長には本当にお世話になりました。

現地では、杉山愛プロや島袋将選手が時間の都合をつけて選手へ激励に来ていただき、武方選手や里選手は大変感動をしておりました。又、練習のコーディネートをしていただいた馬場様や応援をしていただいた日本の方々に本当に感謝申し上げます。

両選手ともに試合前の3日間の練習期間で日に日に調子が上がってきて試合では健闘してくれました。武方選手は惜しくも初戦で敗れてしまいましたが、素晴らしい試合でした。また、里菜央選手は女子で初の予選を勝ち上がり本選出場し、本選でも勝ち上がり2回戦まで進むことができました。さらにダブルスでは斎藤紗良選手とペアを組むことができ、里選手は日本の高校テニスのプレイスタイルで決勝戦まで進出することができ、決勝戦でも終始リードをしていましたが逆転され惜しくも敗れてしまいました。しかし準優勝という素晴らしい結果を残すことができました。世界の4大会のメジャー大会において1戦1戦感動を受けながら応援・サポートをいたしました。

特に現地でサポートしていただいた方々には、感謝しきれません。応援についても、日の丸を振って盛り上げていただいた方、日本人が勝ちあげているからわざわざ応援に来てくださった方。練習時のテニスクラブでもサポートしていただいたマリコさん塚本さん、毎日おにぎりや果物さらにドリンクの差し入れありがとうございました。日本で応援してくださったスポンサーの皆様、高校生や学校関係者の皆様、また実行委員会の皆様、本当に感謝申し上げます。

さて、団長としての反省点は、日本からの出発についてタ方便でニューヨークに向かいました。到着は同じく夕方でありホテルのチェックインが21時ごろになりました。しかし、そのお陰ですぐに就寝することができて時差ぼけが少し軽減できていたと思いました。ホテルは朝食付きでしたがクロワッサン1つ、小リンゴ1つコーヒーであったため足りずに、外のカフェで補食を行いました。ホテルはタイムズスクエアの為非常に交通の便が良かったです。オフィシャルホテルが近くにあったため、サインインやバスの発着までの移動がスムーズでした。ランドリーについてはホテル常設されていないため、洗濯のサポートをしていただいたり外部のコインランドリーで洗濯をしました。しかしその場所は危険な香りがしていました。今後改善点であると考えられます。また、シングルスで勝ち上がり本選入りが決定したら、直ちにダブルスのパートナーを探す動きをすべきと思います。

最後に、このUS OPEN Jrを目指す高校生諸君、選抜から世界へ羽ばたいてください。皆さんの頑張りで世界を掴むことができます。そして、武方駿哉選手、里菜央選手今後の活躍を期待しております。帯同していただいた徳丸先生、菊池先生、ウイルソンの上田様本当の素晴らしいチームでした。今後の活躍を影ながら応援させていただきます。

